

# 令和2年度 施策評価シート

基本目標		地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる
政策	220	区民が安全・快適・便利に暮らし、人々の交流が生まれ、移動しやすいまちをつくる
施策	222	安全で快適な暮らしを支える、便利な交通環境を形成する
施策の目標	鉄道立体化による踏切事故防止や渋滞解消、また、道路のバリアフリー化等により、誰もが安全・安心で快適に暮らせる交通環境が整備されています。	

## 1 基本計画における成果指標の状況

指標名	道路バリアフリー整備延長									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標					13,080m					14,630m
実績	10,290m									
指標名	「区内の交通環境に満足している」区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標					82.0%					85.0%
実績	79.0%									

## 2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
鉄道沿線3区1市で促進連絡協議会を開始し、未整備路線の早期建設に向けた情報共有や調査研究を行っているが、事業主体や費用負担などの課題が多く、事業推進が難しい。	H29	500
	H30	500
	R1	500

## 3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	地下鉄建設を促進するための調査・研究は必要だが、調査の内容などの見直しが必要である。

## 4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
鉄道の沿線自治体で協議会を設置しており、延伸のための調査・検討の継続が必要である。	
【今後の具体的な方針】	
事業着手までは沿線自治体の他に、国、都、県との調整を進め、調査研究及び要請活動を継続する。まずは第1段階区間である地下鉄8号線(豊洲～住吉間)の早期事業化を推進する。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果 評価対象年度
1	地下鉄8・11号線の 建設促進	500	1,748	2,248		現状維持 令和元年度
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						



事業 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	地下鉄8・11号線の調査研究、要請行動等				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		1	R7	目標	1	1	1	1
				実績	1	1	1	1
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	1	1	1	1	1	1	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	鉄道沿線3区1市で、適宜促進連絡協議会等を開催することにより、未整備路線の早期建設に向けて取り組む。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標					単位	
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
			目標					
			実績					
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標								
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
現在のところ事業スケジュール未定のため、成果指標の設定はできないが、まずは地下鉄8号線(豊洲～住吉間)の早期事業化に向け引き続き取り組む。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	公共交通網の整備は、区民の交通利便性の向上に寄与するものであり、地下鉄建設を促進するには、事業の有効性の根拠となる調査研究を継続的に取り組むべきである。よって、鉄道の沿線自治体による促進連絡協議会により、延伸のための調査・検討を継続して行う。まずは第1段階区間である地下鉄8号線(豊洲～住吉間)の早期事業化を推進する。

課題・問題点
事業主体や費用負担などの課題が多く、事業推進が難しいが、全線整備を視野に調査研究を継続している。事業着手までは沿線自治体の他に、国、都、県との調整を進め、調査研究及び要請活動を継続する必要がある。